

1 9.41 試薬・試液

2 以下の試薬・試液を次のように改める。

3 ペリルアルデヒド、定量用 $C_{10}H_{14}O$ ペリルアルデヒド、薄
4 層クロマトグラフィー用。ただし、次の試験に適合するもの。
5 吸光度 (2.24) $E_{1\text{cm}}^{1\%}(230\text{ nm}) : 850 \sim 950$ (10 mg, メタノ
6 ール, 2000 mL)。

7 純度試験 類縁物質 本品10 mgをメタノール250 mLに溶
8 かし、試料溶液とする。この液1 mLを正確に量り、メタノ
9 ールを加えて正確に50 mLとし、標準溶液とする。試料溶液
10 及び標準溶液10 μL ずつを正確にとり、次の条件で液体クロ
11 マトグラフィー (2.01) により試験を行う。それぞれの液の
12 各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶
13 液のペリルアルデヒド以外のピークの合計面積は、標準溶液
14 のペリルアルデヒドのピーク面積より大きくない。

15 試験条件

16 検出器：紫外吸光度計(測定波長：230 nm)

17 カラム：内径4.6 mm、長さ15 cmのステンレス管に5
18 μm の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル
19 化シリカゲルを充填する。

20 カラム温度：40°C付近の一定温度

21 移動相：水/アセトニトリル混液(13 : 7)

22 流量：毎分1.0 mL

23 面積測定範囲：溶媒のピークの後からペリルアルデヒド
24 の保持時間の約3倍の範囲

25 システム適合性

26 検出の確認：標準溶液1 mLを正確に量り、メタノール
27 を加えて正確に20 mLとする。この液10 μL から得た
28 ペリルアルデヒドのピーク面積が、標準溶液のペリル
29 アルデヒドのピーク面積の3.5 ~ 6.5%になることを
30 確認する。

31 システムの性能：(E)-アサロン1 mgを標準溶液50 mL
32 に溶かす。この液10 μL につき、上記の条件で操作す
33 るとき、ペリルアルデヒド、(E)-アサロンの順に溶
34 出し、その分離度は1.5以上である。

35 システムの再現性：標準溶液10 μL につき、上記の条件
36 で試験を6回繰り返すとき、ペリルアルデヒドのピー
37 ク面積の相対標準偏差は1.5%以下である。

38

39

40